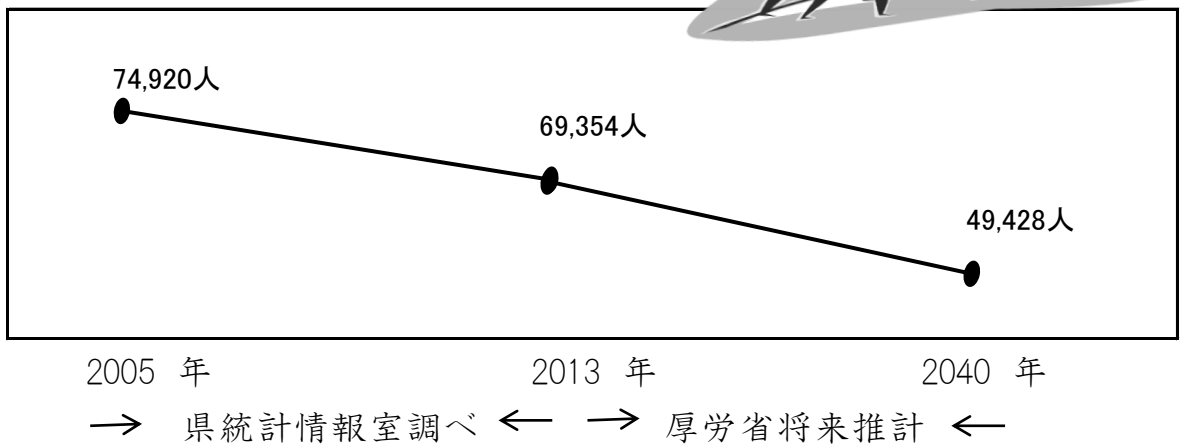
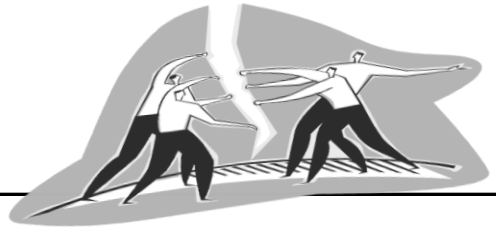
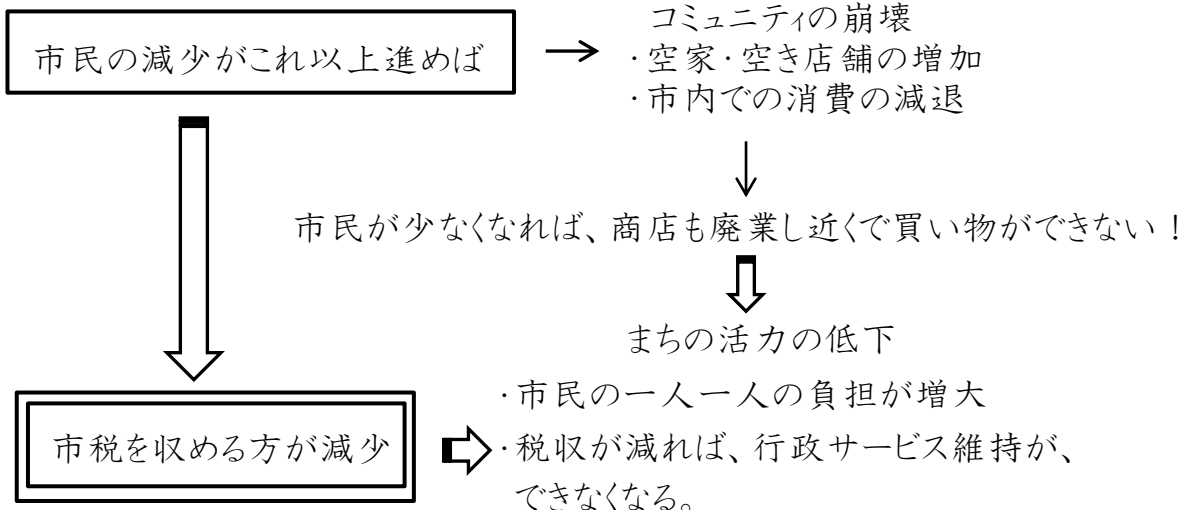


急激な加賀市の人口減少を くいとめるために！

○加賀市の人口減少の状況



◎なぜ?...加賀市人口減少が怖いのか。



◎ 加賀市人口減少の要因

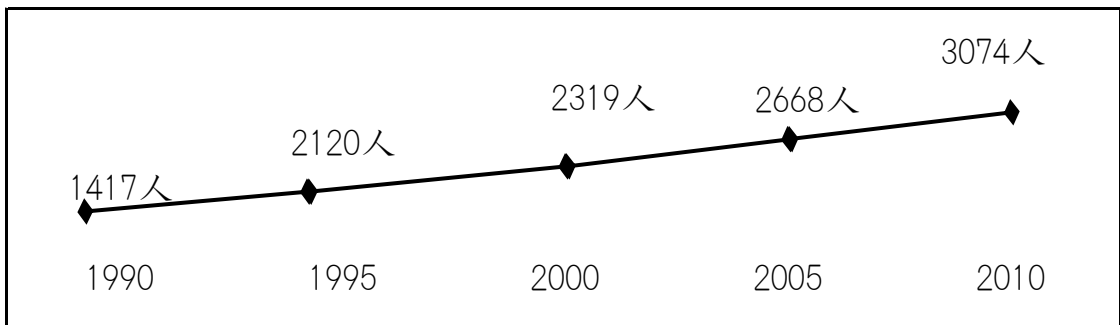
1 加賀市から転出する市民の増加

◇ 社会増減（加賀市から転出していく人と加賀市へ転入してくる人の差）

H21	H22	H23	H24
227人	328人	525人	538人

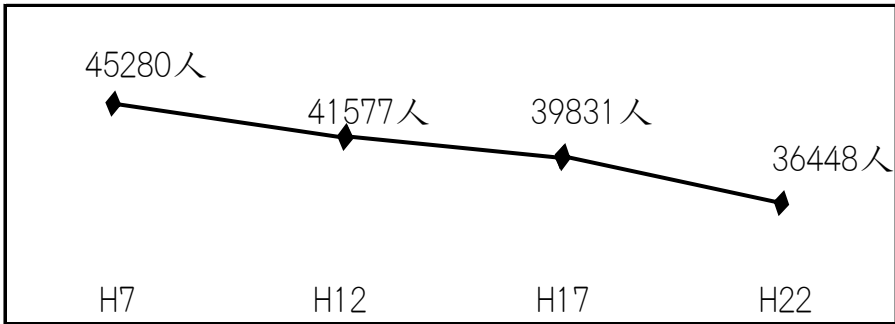
◇ 加賀市を離れていく主な理由

- ・仕事の都合、結婚や離婚による転居。
- ・進学のため…その後は都会で就職する。
- ・仕事があれば、親元に帰ってくるが…適当な仕事が無いため。
- ・仕事が市外のため、加賀市に住むメリットがないから。
- ・他の市の方が暮らしやすいから
- ・観光業(特に旅館関係)が不況になると、比較的若い人は加賀市を離れ景気の良い温泉地へ仕事を求めて移動していくため
など
- ・雇用先の課題
- ・加賀市の完全失業者の増加



雇用の悪化と真正面から向き合い、行政として雇用対策強化をすべき。

◆ 働いてかせぐ方の減少(加賀市の就業者の減少)



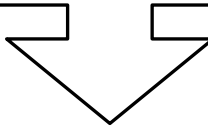
◆ 非正規雇用(低収入勤務)の方が増加

市内で働く方の31.4%もの方が非正規雇用で働いています。



それぞれ事情がありますので、多様な働き方が必要と考えますが、現在、雇用や低賃金について、市民からの相談が多く、正規の仕事に就きたいけれど、就けないので仕方なく非正規でしのいでいる方が増えている事が問題です。

行政として、正規雇用を希望する方が正規の仕事につけるようにするために、市内企業の支援及び企業誘致によって、市内の活力をとりもどし、市内に雇用の場をつくっていかねばいけません。



- ・ 誘致企業へ固定資産税の減免措置
- ・ 市内の頑張っている企業への支援などによって



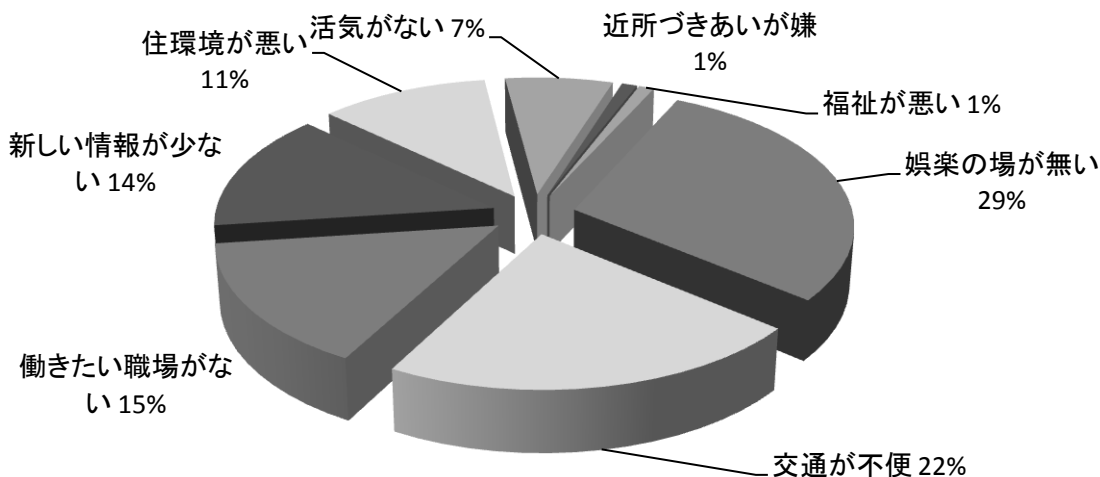
加賀市内に働く場を増やす！！



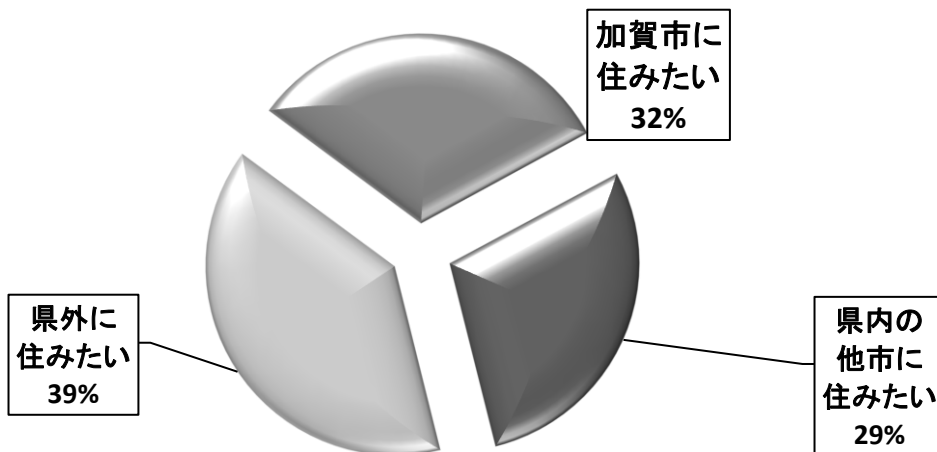
○ 次世代の声を取り入れよう！

＝ 加賀市に住む高校生へのアンケート結果

・ 加賀市に足りないものは？



・ 加賀市内に住みたい？



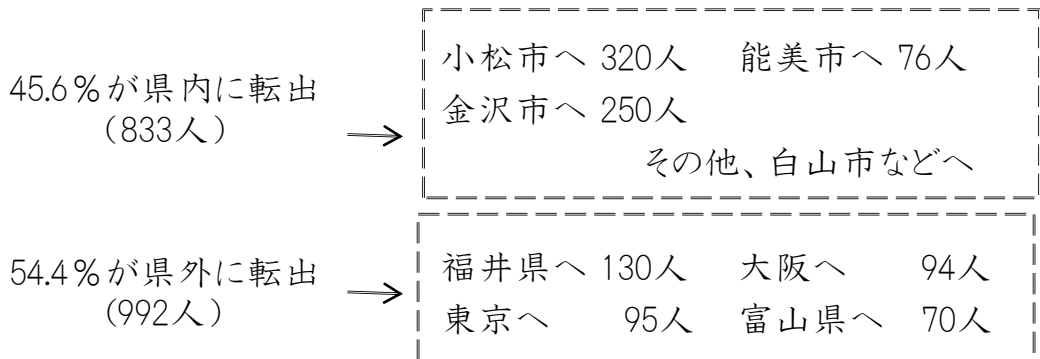
→ 次世代が、末永く加賀市で暮らしていこうと思う市にするために！

次世代の声を、市政に反映すべき！！

まず…

- ・ 地域の魅力(娯楽を含む)の充実
 - ・ 公共交通の確保、多様な職場づくり など、
- 次世代が足りないと感じている事を改善していく。

では、実際に・・・元・加賀市民は、どこに転出しているのでしょうか？
(H23年 1825人の転出先:例)



く 転出する方の多くが・・・実は、都会へ行くわけではなく、
～ 案外、近隣の他市へ移り住んでいるのです～

→ 近隣他市は、市外からの転入推進のために様々な取り組みを行っています。

加賀市としても先進地のとりくみを参考に、 住民を呼び込む施策を具現化していくことが必要です。

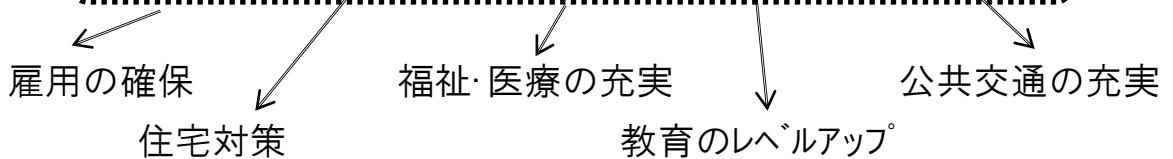
◇ 加賀市の課題 — 働き盛り、子育て適齢期の若年層の流出が多い



これでは、加賀市はジリ貧になっていきます。



市民満足度の高い市 へ転換していかなければなりません



・ 人口減少をくいどめ、活力ある市とし、多くの方が、加賀市に住み続けるためには・

働ける職場づくり・雇用の創出に全力を投入！！

とりくみ

- ・ 市内の既存頑張る企業への支援強化
- ・ 企業の設備投資・先行投資への資金貸与の充実
- ・ 企業誘致の一層の推進（市内に多様な職場を）
- ・ 誘致企業への市内在住者積極採用の働きかけ
- ・ 加賀市で創業を行う方のための、支援助成制度の充実
- ・ 高校生人材育成事業（技能訓練支援など）
- ・ Uターン就職支援
- ・ 地場産業・伝統工芸後継者育成支援
- ・ 農林漁業担い手不足対策



（例：新規就農者などへの支援強化・耕作放棄地対策）

- ・ 加賀市[三温泉地を抱え、さらに、介護・福祉関連が充実している市]という特色を生かし、温泉療法を始めとした、「高齢社会に対応した温泉・医療・福祉の融合」による雇用の創出



- ・ 加賀市への移住・定住対策支援
- ・ 加賀市には、一戸建ての空家が1256戸もある。（既存資源の有効活用）

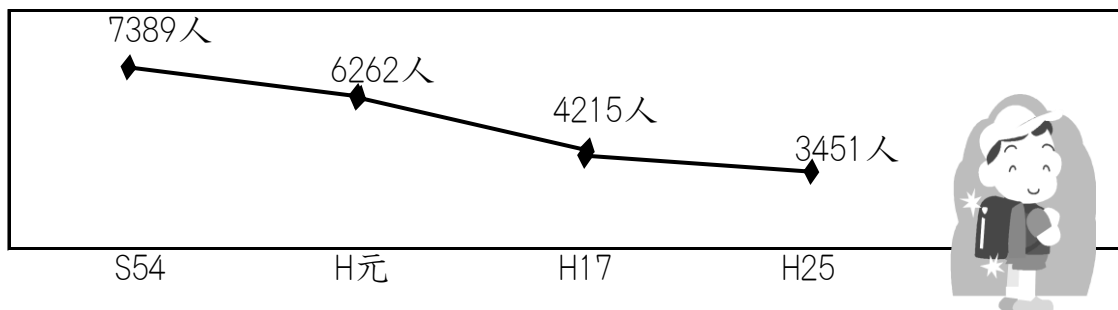
市が、仲介して【空家バンク】をつくり、広い家を求めて移住を考えている方に提供する。さらに、アパートで暮らす市民やファミリー層にも、空家をアパートの家賃並で購入又は賃貸で利用できるような仕組みを、市が仲介して【空家活用制度】を構築していく。

- ・ 北陸新幹線開業を見据えて、広域観光連携を
（例：金沢観光・加賀宿泊へ向けての取り組み、2次交通の充実・オール加賀でのPRなど）



2 子どもの数が減少（少子化）

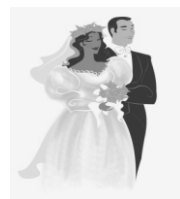
市内小学生の急激な減少



- ・ 市内のほぼすべての小学校の子どもが、半数以下に激減しています。
原因としては、子育て期の若年層が、加賀市から流出してしまっていること、又、市民の未婚化、晩婚化、あるいは、「子育てにお金がかかり過ぎて、子どもを産み育てることができない」との声があります。

厚生労働省の意識調査によれば、

独身男女の9割は結婚の意識は持っている



では、WHY、未婚が増え続けているのか？

1つの理由・・・結婚適齢期の方々の収入の低さが、指摘されています。

（結婚しても、家族を養っていけない。という方が増加）

- ・ 非正規雇用の増加、又、正規雇用でも、都会ほど給料が高くない



（そのため、家庭を持っても、共働きでないと家庭を維持できないという世帯が増えています。）

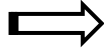
- 加賀市の共働き率 59.6%（全国平均45.5%を大きく上回っています）
- 加賀市の女性就業率 79.8%（25～44才）

加賀市は多くの女性が働いている市です！

だからこそ

市内企業の《家庭と仕事の両立制度》の充実が重要

共働き世帯の悩み



仕事と家庭の両立

- 小さな子どもを社会全体で育てていく気運を高め、子ども見守りネットの
◎ 充実や学童保育の拡充などによって、地域と市内企業が子育てを応援
していく市にしていかなければなりません。

そのためには

市として、企業や社会に働きかけ
市民の「結婚・妊娠・出産・子育て」を支援し、
助け合う環境整備を行うことが、大切であります。

とりくみ

- ・ 不妊治療・不育治療助成の強化
- ・ 育児休業制度等が未整備の市内企業へ、整備するよう働きかけを！
- ・ 相談体制の強化(出産、育児によるお母さんの孤立化を防止)
- ・ 子育て安心サービスの充実

例:こども医療費助成、保育料など子どもの養育にかかる費用の軽減、
0歳児保育・延長保育など、保育サービスの充実。
こども見守りネットの充実など

- ・ 働くお母さんのために→放課後児童クラブの充実
(H19年13箇所から、H25年23箇所へ増加)
- ・ 出会いの場づくり、婚姻活動支援(婚活パーティ)など
- ・ 社会全体で子どもを産み育てることを、見守れる加賀市へ

室谷 ひろゆき 議会報告

市役所 加賀市大聖寺南町二41
住所 加賀市山代温泉14の67

72-7965(代)
77-7839

2013年
8月号

(討議資料)